

参 考 資 料

1. 現在行われている共同研究
2. 国立民族学博物館（みんぱく）所蔵の研究資料等について
3. 共同研究会旅費所要額算出資料

資 料 1

現在行われている共同研究一覧

詳細につきましてはHPをご確認ください。(<https://www.minpaku.ac.jp/research/project/iurp>)

(一般)

所属	研究課題名	研究代表者名
国立民族学博物館	博物館における持続可能な資料管理および環境整備——保存科学の視点から	園田 直子
桜美林大学 人文学系	人類学/民俗学の学知と国民国家の関係——20世紀前半のナショナリズムとインテリジェンス	中生 勝美
首都大学東京 人文社会学部	ネオリベラリズムのモラリティ	田沼 幸子
京都大学大学院 人間・環境学研究科	オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究	風間 計博
岡山大学 文明動態学研究所	伝統染織品の生産と消費——文化遺産化・観光化によるローカルな意味の変容をめぐって	中谷 文美
京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科	心配と係り合いについての人類学的探求	西 真如
慶應義塾大学 文学部	統治のフロンティア空間をめぐる人類学——国家・資本・住民の関係を考察する	佐川 徹
関西学院大学 人間福祉学部	グローバル時代における「寛容性／非寛容性」をめぐるナラティブ・ポリティクス	山 泰幸
徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 社会総合科学学域	カネとチカラの民族誌：公共性の生態学にむけて	内藤 直樹
同志社女子大学・現代社会学部	沙流川調査を中心とする泉靖一資料の再検討	大西 秀之
名古屋大学大学院・人文学研究科	グローバル化時代における「観光化／脱-観光化」のダイナミズムに関する研究	東 賢太郎
国立民族学博物館	食生活から考える持続可能な社会——「主食」の形成と展開	野林 厚志
東京都立大学 人文社会学部	社会・文化人類学における中国研究の理論的定位——12のテーマをめぐる再検討と再評価	河合 洋尚
国立民族学博物館	人類史における移動概念の再構築——「自由」と「不自由」の相克に注目して	鈴木 英明
国立民族学博物館	島世界における葬送の人類学——東南アジア・東アジア・オセアニアの時空間比較	小野 林太郎
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	海外フィールド経験のフィードバックによる新たな人類学的日本文化研究の試み	片岡 樹
北海道大学文学研究院	「描かれた動物」の人類学 ——動物×ヒトの生成変化に着目して	山口 未花子
広島大学アクセシビリティセンター	月経をめぐる国際開発の影響の比較研究——ジェンダーおよび医療化の視点から	新本 万里子
国立民族学博物館 人間文化研究機構	環北太平洋地域の先住民社会の変化、現状、未来に関する学際的比較研究——人類史的視点から	岸上 伸啓
国立民族学博物館	不確実性のなかでオルタナティブなコミュニティを問う——モノ、制度、身体のからみあい	森 明子
国立民族学博物館	戦争・帝国主義と食の変容：食と国家の関係を再考する	宇田川 妙子

国立民族学博物館	日本列島の鶴飼文化に関するT字型学際共同アプローチ——野生性と権力をめぐって	卯田 宗平
静岡大学人文社会科学部	現代アジアにおける生殖テクノロジーと養育——ジェンダーとリプロダクションの学際的比較研究	白井 千晶
中央学院大学現代教養学部	観光における不確実性の再定位	土井 清美
東京藝術大学音楽学部	民博所蔵東洋音楽学会資料に基づく日本民俗音楽の再構成と再活性化	植村 幸生
国立民族学博物館	被傷性の人類学／人間学	竹沢尚一郎
国立民族学博物館	日本人による太平洋の民族誌的コレクション形成と活用に関する研究——国立民族学博物館所蔵朝枝利男コレクションを中心に	丹羽 典生

(若手)

所属	研究課題名	研究代表者名
公立大学法人京都市立芸術大学	拡張された場における映像実験プロジェクト	藤田 瑞穂
大阪大学	感性と制度のつながり——芸術をめぐる「喚起」と「評価」のプロセスから考える	緒方 しらべ
九州大学大学院 比較社会文化研究院	モビリティと物質性の人類学	古川 不可知
神戸大学 大学院国際文化学研究科	先住民と情報化する社会の関わり	近藤 祉秋
筑波大学芸術系	伝承のかたち「に触れる」プロジェクト——「3Dプリント×伝統素材・技法」のアプローチから	宮坂 慎司

国立民族学博物館（みんぱく）所蔵の研究資料等について

国立民族学博物館が所蔵している諸資料は、次のとおりです。日本語図書、外国語図書、雑誌などの所蔵情報、服飾関連情報のデータベースは、ウェブサイトからも検索できます。

1. 諸資料の所蔵一覧（令和3年3月31日現在）

標本資料（未登録資料含む）	345,134 点	文献図書資料	
海外資料	179,256 点	図書	686,283 冊
国内資料	165,878 点	日本語図書	270,428 冊
		外国語図書	415,855 冊
映像・音響資料	72,698 点	雑誌	17,232 種
映像資料	8,277 点	日本語雑誌	10,162 種
音響資料	64,421 点	外国語雑誌	7,051 種
		HRAF (Human Relations Area Files)	
		地域（民族集団）ファイル	385 ファイル
		原典（テキスト）	7,141 冊

2. データベース

本館の所蔵資料をはじめ、さまざまな研究資料や研究成果をデータベース化し、館内外に広く提供しています。

以下 URL から、データベースを閲覧できます。

<https://htq.minpaku.ac.jp/menu/database.html>

また、「国立民族学博物館 要覧 2021」ではデータベース一覧及び収録レコード数等を掲載しております。（p49 参照）

<https://www.minpaku.ac.jp/aboutus/organization/youran>

3. 民族学研究アーカイブズ

国立民族学博物館では、発足以来、民族学者の研究ノートや原稿、フィールドで収録した映像・録音記録など、様々な資料を蓄積してきました。

以下 URL から、民族学研究アーカイブ一覧を閲覧できます。

<http://nmearch.minpaku.ac.jp/>

4. その他

本館の研究活動情報、展示、本館の刊行物、本館が所蔵する図書資料の検索などの情報を国立民族学博物館ホームページで提供しています。

共同研究会旅費所要額算出資料

共同研究会開催計画に伴う所要経費（館外共同研究員旅費）については、下記により算出してください。

なお、本資料は、館外の共同研究員が共同研究会に参加された場合の目安金額であって、実際に研究会に参加されたときは本館の旅費支給規則に基づき計算しますので金額が異なります。

記

1. 次の区分の住所により、下表の地区別を適用してください。

- ① 公的機関（国，地方公共団体，大学法人等），私立大学，会社等に所属される共同研究員は，共同研究員の所属機関の住所
- ② 非常勤講師，大学院生及び所属機関のない共同研究員は，共同研究員の自宅住所

◎ 共同研究会出席（1人・1回当たり）の所要経費（概算）

地区別	都 道 府 県 名	1 日開催の場合		連続 2 日開催の場合	
北海道	北海道全域	1泊2日	86,340円	2泊3日	99,840円
東北	青森県，秋田県，山形県，岩手県，宮城県，福島県		77,800円		93,460円
関東	東京都，埼玉県，千葉県，神奈川県		46,300円		59,800円
	茨城県，栃木県，群馬県		51,100円		64,600円
甲信越	新潟県，山梨県，長野県		48,400円		61,900円
北陸	富山県，石川県，福井県		32,400円		45,900円
東海	岐阜県，静岡県，愛知県，三重県	日帰り	17,400円	1泊2日	41,100円
近畿	大阪府，兵庫県，京都府，滋賀県，奈良県，和歌山県		3,700円	日帰り	7,400円
中国	鳥取県，島根県，岡山県，広島県，山口県	1泊2日	36,400円	2泊3日	49,900円
四国	香川県，徳島県，愛媛県，高知県		37,100円		50,600円
九州	福岡県，佐賀県，長崎県，熊本県，大分県，宮崎県，鹿児島県		51,800円		65,260円
			68,800円		82,300円
沖縄	沖縄県				